

## ユネスコスクール班の活動の枠組み

秋田商業高校ユネスコスクール班による学習活動は、総合的な学習の時間やユネスコスクールなどの様々な教育的な枠組みによって可能になりました。ここでは、そのような枠組みについて紹介いたします。

### ビジネス実践

本校ではここ数年、総合的な学習の時間に行うすべての学習を「ビジネス実践」と称し、学校全体を会社組織に見立てて全校の生徒・職員が各班に分かれ、商品の開発・販売や地域への貢献活動などを行っています。4月から11月までに行ったビジネス実践による学習成果の発表の場はAKISHOP(アキショップ)と呼ばれ、毎年秋田拠点センター・アルヴェや秋田ポートタワー・セリオンなどで開催されています。

### 国際協力課

このビジネス実践の校内組織の中に、2007～2008年度には国際協力課があり、生徒40名と教員3名で構成されていました。国際協力課では、様々な形で国際理解・国際協力活動を行いました。こうした学習活動を通して、生徒が世界の現状を理解し、可能なことを実践することによって、結果的に自己の立場や環境を客観視する(足元を見つめる)こと、そのようにして、自分が今なすべきことが見付き、それが自己実現や進路実現につながっていくことが期待されました。

### ユネスコスクール班

秋田商業高校のユネスコスクール加盟に伴い、2009年度にビジネス実践の組織が改変され、国際協力課はユネスコスクール部となり、そこに直属する班としてユネスコスクール班が設置されました。2009年度から2012年度まで、この班に属する高校2～3年生と教員数名が、本校におけるユネスコスクールとしての活動を主導しました。外部機関との連携にも力を入れ、JICA東北と連携した国際理解教育や、地元のNGO RASICAと連携した環境教育などを推進してきました。

### エコロジカルビジネス班

2012年度までのユネスコスクール班は、「ビジネス実践」という枠組みの中で、よりビジネスに関連した学習活動を行うために、2013年度からエコロジカルビジネス班(略称エコビズ班)に名称を変更しました。地域の企業、NGO、NPOなどと連携しながら、エコロジカル(生態系保全・環境保護)とビジネス(商業・経済活動)を両立させた持続可能な社会のあり方を研究し、そのような社会を実現するために「できること」を実践しています。

## A-style

ユネスコスクール班(及びその前身の国際協力課)は2007～2010年度に、アフリカ理解・支援に重点を置いて活動しました。アフリカについて一般市民の勉強会で発表したり、マラウイ共和国にサッカーユニホームを送ったり、実際にウガンダを訪れて現地の子供たちと交流したりしました。このアフリカに関連した一連の学習・支援活動はA-styleと総称されています。2010年度からはRASICA主催のネパールへのスタディツアーに生徒が参加するようになり、ユネスコスクール班のA-styleはアジア地域にも関係するようになりました。

## ESD(持続発展教育)

ESD=Education for Sustainable Developmentは、国際連合教育科学文化機関(ユネスコ)が中心となって推進している世界的な取り組みです。日本では「持続可能な開発のための教育」あるいは「持続発展教育」と呼ばれています。

2008年7月に策定された教育振興基本計画では、「一人一人が地球上の資源・エネルギーの有限性や環境破壊、貧困問題等を自らの問題として認識し、将来にわたって安心して生活できる持続可能な社会の実現に向けて取り組むための教育」がESDと定義され、このような考え方は、2009年3月に告示された新学習指導要領にも反映されました。

本校では、ユネスコスクール班の取り組みのほか、AKISHOPやキッズビジネスタウンの取り組みもこのESDになり得ると考えられます。

## ユネスコスクール

このESDを推進する枠組みとして「ユネスコスクール」があります。ユネスコスクールは、ユネスコ憲章に示されたユネスコの理想を実現し、また、平和や国際的な連携を学校での実践を通じて促進することを目的に設けられたものです。2013年1月現在で日本では550校が加盟しています。本校は、2009年2月にユネスコスクールに加盟しました。

ユネスコスクールの活動目的としては、世界中の学校と生徒間・教師間で交流し、情報や体験を分かち合うことと、地球規模の諸問題に若者が対処できるような新しい教育内容や手法の開発、発展を目指すことが挙げられています。

ユネスコスクールでは、次の四つのテーマを基本分野として設定することが推奨されています。

- (1)地球規模の問題に対する国連システムの理解
- (2)人権、民主主義の理解と促進
- (3)異文化理解
- (4)環境教育

## 年度ごとのテーマ設定

ユネスコスクール班は、上記のユネスコスクールの4つの基本分野に関連したテーマを年度ご

とに設定し、そのテーマに関連した研究や実践をその年度に集中的に行いました。さらに、その内容は次の4冊の本にまとめられています。

2007～2008年度のテーマ「世界を感じて、足元を見つめなおす」

(ユネスコスクールの基本分野「異文化理解」に関連)

書籍『高校生のための国際協力入門』(アルテ、2008年)

2009年度のテーマ「地球規模の問題に対する国連システムの理解」

(ユネスコスクールの基本分野「国連システム」「人権、民主主義」に関連)

書籍『高校生のための国際連合入門』(アルテ、2009年)

2010年度のテーマ「アフリカ理解」

(ユネスコスクールの基本分野「異文化理解」に関連)

書籍『高校生のためのアフリカ理解入門』(アルテ、2010年)

2011年度のテーマ「地球環境問題」

(ユネスコスクールの基本分野「環境教育」に関連)

書籍『高校生のための地球環境問題入門』(アルテ、2012年)

2012年度には、「経済活動から世界を考える」をテーマに設定し、そのテーマとは別に、書籍『ユネスコスクールによるESDの実践』(アルテ、2013年)を編集・出版しました。この本は、ESDそのものをテーマとし、ESDやユネスコ、ユネスコスクール、ホリスティック教育、教育におけるスピリチュアリティなどに関する大学等研究者の専門的知見を集めたものです。